



2012 Formula Nippon
Project μ /CERUMO・INGING Race Report
第5戦 ツインリンクもてぎ

◆ 8月4日 (土) 予選

#38 平手 晃平 7位 / #39 国本 雄資 15位

< 公式予選 > 天候:晴れ | コース状況:ドライ

過去2戦、連続で2台そろってポイントを獲得するなど、激戦で知られるフォーミュラ・ニッポンにあって徐々に2台体制のメリットを発揮し、安定した戦いを見せ始めた Project μ /CERUMO・INGING。しかし、さらなる上位入賞、表彰台、そして優勝を目指して行くためには、まだまだ多くのハードルを越えて行かねばならない。平手、そして国本のドライバーコンビはもちろん、チーム一丸となつての好リザルトを目指し、Project μ /CERUMO・INGING は第5ラウンドのツインリンクもてぎに臨んだ。

真夏の暑さとなった金曜、気温 35°C近い状況で汗だくになりながら搬入作業を終えたスタッフたちだが、一夜明けて土曜のツインリンクもてぎも、やはりまずまずの晴天に。しかしながら、やや雲が多いこともあって前日よりは多少気温も下がるとの予報が出される中、午前8時35分から1時間のフリー走行がスタートした。

Project μ /CERUMO・INGING の2台は、セッション開始と同時に前後してコースイン。中古タイヤで持込みセットとコース状況の確認を行った2台は、まずは平手が4周目に1分36秒350、国本が3周目に1分38秒194を刻んでそれぞれピットインすることに。

セットアップに修正を加えた国本は、午前8時52分にピットアウト。その3分後には同じく平手もピットを離れる。先にコースに戻った国本は、6周目に1分36秒720にタイムアップ、さらに1分36秒663として15番手辺りにつけ再びピットへ。平手は7周目に1分36秒002として7番手でピットに向かう。

同じようなタイミングでピットイン&アウトを繰り返すこの日の平手と国本は、午前9時05分に相次いでピットアウト。ここで国本は10周目に1分36秒374とするが、トップは1分35秒前半という状況の中、ポジション的には13番手と今ひとつという状況が続く。

その後もピットイン&アウトをしながらセットアップを進めた2台は、終盤になってニュータイヤを投入し予選シミュレーションを行う。セッション残り5分となった午前9時30分、ともにニュータイヤでコースに出た時点で、平手は8番手、国本は15番手というポジションにつけている。

ここで国本は15周目、1コーナーでややはらんでしまうミスはあったものの、1分35秒724をマークしモニターの6番手にジャンプアップをするが、その後はタイム更新はならず。一方の平手は18周目に1分35秒241にタイムアップしその時点で7番手につける。しかし、ライバル勢のタイム更新もあり、セッション終了の段階で平手は8番手、国本は13番手という結果となった。

順風満帆のスタートとはならなかった Project μ /CERUMO・INGING の2台だが、チームは午後のノックアウト予選に向け準備を整えることとなった。

今回併催の2輪の予選などが終わった午後1時30分、フォーミュラ・ニッポンのノックアウト予選がスタートした。上空の雲は

増えているものの、切れ間から射るような日差しがコースを照らしている中、Project μ /CERUMO・INGING の 2 台は、まずは 20 分間の Q1 に挑んだ。

上位 13 台が Q2 への進出となる Q1。予選での上位進出のためには是が非でも突破しなければならない最初の関門に向け、まずはセッション開始と同時に国本がコースイン。平手は約 1 分後にピットを離れたが、ここではまだ 2 台ともにユーズドタイヤでのコースインだ。

計測 2 周目に 1 分 36 秒 287 をマークし、その時点で 3 番手につけた国本。同様に平手も 2 周目に 1 分 36 秒 459 をマークし 7 番手とし、それぞれアタックに向けたフィーリングをチェックするといったんピットイン。ニュータイヤでのアタックに向けてピットでセットアップ修正とニュータイヤへの換装を行う Project μ /CERUMO・INGING の 2 台。待機している間にライバル勢がタイムを上げたため、この段階で国本 12 番手、平手 13 番手へとポジションは下がっていく。

1 周のみのアタックを前に、満を持して残り 5 分の段階でピットを離れた国本、そして平手。国本は 1 分 57 秒 865、平手は 2 分 00 秒 403 と、それぞれゆっくりとタイヤを温めた 2 台は、翌周にアタック。国本はスローカーに引っ掛かってしまったものの、1 分 35 秒 985 で 10 番手につけると、平手は 1 分 35 秒 344 で 6 番手に。しかし、ライバル勢も同様にアタックしており、見る間にポジションは下がって行く。

アタックを終えた国本は、もう 1 周アタックをと考えるもスローダウンしたマシンがコース上に多くアタックを断念しピットに帰還。平手もピットに戻るが、終了間際に数台のマシンがタイム更新をしてしまったことで、平手は 8 番手で Q1 を突破したものの、国本はなんと 15 番手にドロップ。予想外の Q1 敗退となってしまふ。

無念の予選結果となった国本のみでチームの期待を背負った平手は、午後 2 時からの Q2 に進出。7 分間のこのセッションでは、トップ 8 台に Q3 進出権が与えられることとなっている。Q1 同様、残り 5 分となったところでピットを離れた平手は、再びゆっくりタイヤを温めると、午後 2 時 04 分にアタックラップに入ると、ここで 1 分 35 秒 214 とここまでのペストラップを刻むことに成功。この時点で 5 番手とした平手は、最終的に 7 番手で Q2 を終了。見事 Q3 への切符を手にする。

10 分のインターバルを置いて迎えた Q3。この 7 分間のセッションの結果が、そのまま明日の決勝のスターティンググリッドとなるだけに、ひとつでも上のグリッドを確保したいところ。平手は再びニュータイヤを履き、またもラスト 5 分となったところでコースインする。

午後 2 時 21 分、この日最後のアタックに入った平手は、渾身のアタックを敢行。ここで 1 分 35 秒 211 と、Q2 のタイムを凌ぐ好タイムをマークした平手は、さらにもう 1 周アタックを続けるもタイムは 1 分 35 秒 500 で残念ながら更新はならず。Q3 進出を果たした Project μ /CERUMO・INGING と平手だったが、上位陣の攻防は最高峰らしく熾烈さを極め、惜しくも上位進出はならずこの Q3 は 7 番手に。

この結果、平手は 7 番手、国本は 15 番手という予選結果となった Project μ /CERUMO・INGING。明日は 52 週の長い戦いとなるが、4 列目、8 列目というグリッドに別れた 2 台に過去 2 戦同様の好レースが期待される。



ドライバー／#38 平手 晃平

「フィーリングの良かったオートポリスの状態をベースにして今回のもてぎへの持込みセットアップをしてもらったのですが、過去のもてぎで良くなかった部分がかかなり改善されていて、今日は走り始めからまずまずのフィーリングで走ることが出来ました。ただ朝のフリー走行、Q1～Q3 を通じて、ブレーキングで少しリヤに不安定な症状があつて、それを少しずつ改善して行くことは出来たものの、完全に消すところまでは行かなくて。安心してコーナーに飛び込んで行くことが

出来ないために、ずっとその部分を気にしながらのアタックでした。それでも Q3 まで進むことが出来ましたし、7 番手から決勝をスタートすることが出来るので、明日朝のフリー走行で、決勝を想定したセットにすれば症状が解消する可能性もありますから、そうなればレースでも強いはずとポジティブに捉えて行きたいと思います。明日はなんとかトップ 5 くらいまでは行きたいですね」

ドライバー／#39 国本 雄資

「朝からバランス的にもあまり良くなかったですし、Q1 では他のクルマに引っ掛かってしまって。そのせいで思ったようにアタック出来なかったのが残念です。アタックラップの 5 コーナーと S 字、2 カ所で引っ掛かったので、たぶんトータルでコンマ 5 秒ほどはロスしてしまったと思います。それがなければ、とは思いますがいずれにせよ厳しい一日でした。もう 1 周アタックしようとしたのですが、その時点で前方にゆっくり走っているマシンがいっぱいてアタック出来るような状況ではなかったんです。明日は 15 番手と苦しいポジションからのスタートになりますが、ここは抜きづらいサーキットで厳しい戦いになりそうですが、前回もてぎでは決勝のペースが良かったですし、問題点は分かっているのでなんとか明日のフリー走行で解決して追いつきたいと思います」



監督／立川 祐路

「平手の 38 号車に関してはこのところ良くなって来ていますし、今回も Q3 まできちんと残ってくれたんですが、トップどころとのタイム差がありましたね。まだ一歩足りない部分というか、上位陣に迫れるようもっとレベルを上げなければいけません。Q2 くらいまではそれほどタイム差はなかったんですが、やはり Q3 でどれだけ最後に絞りだせるかという部分でまだ負けているんだろうと思います。しかし 7 番手からスタート出来るので、明日は表彰台を目指して欲しいと思います。一方国本の 39 号車についてはクリアラップがうまく取れなかったようですが、それがなくても朝から今ひとつだったようなので、厳しい戦いになっていたんじゃないでしょうか。なんとか明日のフリー走行で状況を改善して、2 セット残っているニュータイヤをうまく使いつつシングルポジションには行って欲しいですね」